Unit 7

Dialog 概要

pp.42-43

* サキはウェブサイトで見つけた錯視（目の錯覚を用いた絵）についてデヴィッドに話す。視覚によって集めた情報を脳が実際のものとは異なるように認識して錯覚を起こすということらしい。最初の例は直線が並んでいるのに，曲がったり動いたりしているように見えてしまうものだ。
* デヴィッドはそれを見て別の例を思い出す。それは花びんにも見えるが，二人の人が見つめ合っているようにも見えるものだ。サキはその絵も持っていた。
* デヴィッドは最初の例と次の例の種類が異なることに気付いた。前者は生理的錯覚であり，後者は認知的錯覚なのだとサキは言う。デヴィッドは，生理的錯覚は脳が外界とやり取りした過去の経験によって起こるもので，認知的錯覚は無意識の推論によって起こるものなのだとすぐに理解する。
* サキは芸術家によって創られる別の種類の錯視について述べる。それは一般的な異なる対象を組み合わせて全く異なる絵を作るというもので，例を挙げると，女性が鏡を見ている絵なのだが，頭と影が骸骨の目のように認識できるというものだった。デヴィッドはこれと同種類の異なる果物を使って人間の顔と上半身をつく合った絵の例を挙げた。錯視とは新しい世界の見方を教えてくれる面白いものだ。

Part 1概要

* サキはウェブサイトで見つけた錯視についてデヴィッドに話す。視覚によって集めた情報を脳が実際のものとは異なるように認識して錯覚を起こすということらしい。
* サキは直線が曲がったり動いたりしているように見えてしまう例をデヴィッドに見せた。

Part 2概要

* サキはウェブサイトで見つけた錯視についてデヴィッドに話す。視覚によって集めた情報を脳が実際のものとは異なるように認識して錯覚を起こすということらしい。
* サキは直線が曲がったり動いたりしているように見えてしまう例をデヴィッドに見せた。
* デヴィッドは別の絵を思い出した。それは花びんにも見えるが，二人の人が見つめ合っているようにも見える絵だ。
* デヴィッドは最初の例と次の例の種類が異なることに気付いた。

Part 3概要

* サキはウェブサイトで見つけた錯視についてデヴィッドに話す。視覚によって集めた情報を脳が実際のものとは異なるように認識して錯覚を起こすということらしい。
* サキは直線が曲がったり動いたりしているように見えてしまう例をデヴィッドに見せた。
* デヴィッドは別の絵を思い出した。それは花びんにも見えるが，二人の人が見つめ合っているようにも見える絵だ。
* サキはデヴィッドに３つの種類があると言い，説明する。生理的錯覚は脳が外界とやり取りした過去の経験によって起こるもので，認知的錯覚は無意識の推論によって起こるものなのだと言う。
* サキは錯視によって新しい世界の見方ができると言う。